

4. 溶射による防食技術の現状について

1. 研究会における技術説明内容

- (1) 川重・技術研究所 山下清司氏より、溶射の一般事項についてスライドを用いて説明があった。
- (2) 第一メテコ 相沢芳行氏より、特殊溶射，耐摩耗，耐熱，肉盛について、機器メーカーの立場から説明があった。
- (3) 東京メタリコン 石川量太氏より、主に橋梁製品を対象にした防錆溶射について施工者の立場から説明があった。

2. 討 議 内 容

(1) 溶射に期待されている背景

維持管理費の負担増により、メンテナンスフリー橋梁の出現が求められている。溶射橋梁の実施例も増加の傾向にあり、また“本四指針”においてもその仕様が取り上げられており、その防錆効果も認識されつつある。

(2) 問 題 点 等

- ①今後追跡調査を行って防錆効果の定量的評価を定着させることが大切であろう。
- ②初期投資がジンクリッチプライマーの約3倍となるので、経済的な施工法の確立を行うことが必要である。
- ③下地処理程度に敏感であること。現場作業の施工性が悪いこと、補修作業が容易でないこと等の短所を持っている。

(3) 今後の開発の方向性

- ①溶射材料、並びに塗装混用の場合の防錆効果の大きい仕様の確立
- ②作業能率のアップ
 - ・自動化装置の開発
 - ・溶射材料，溶射機器の開発

(4) 施 工 指 針

公的に認められた設計・施工指針の設定が望まれる。